

檀特山遺跡の調査

- 里山林整備事業に伴う埋蔵文化財確認調査 -



2000年7月

太子町教育委員会

例 言

1. 本書は、社団法人兵庫県緑と花の会社による里山林整備事業に先立つ

檀特山遺跡の調査

1. 本書は、揖保郡太子町東南字檀特山麓に所在する檀特山遺跡の概要報告である。
2. 調査は、社団法人兵庫県 緑と花の会社による里山林整備事業に伴い、平成 11 年 11 月 26 日 から 12 月 1 日にかけて実施したものである。
3. 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課 三村修次、海野浩幸、が担当した。
4. 調査にあたっては、太子町シルバー人材センターの協力を得た。
5. 整理作業にあたっては、井上道子、岩村千穂、大津早苗、改発法子、加藤美穂、中村豊子、田中 薫の協力を得た。
6. 本書で示す標高値は、T.P を、方位は国土座標第 一 係を、それぞれ基準とした。
7. 遺物観察表の番号は、遺物実測図と一致する、また色調は、日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帖 1992 年版』による。
8. 本書の執筆・編集は、三村修次、海野浩幸、田中 薫、が行った。

本文目次

例言

調査に至る経過	1
調査の概要	2.
出土遺物	5.
まとめ	6.

挿図目次

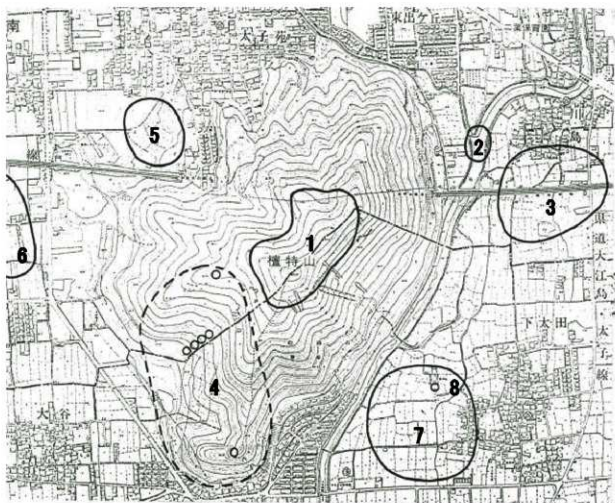
第1図 周辺遺跡分布図	1	第4図 山頂部坪配置図	3
第2図 調査位置図	2	第5図 土層実測図	4
第3図 調査区設定図	2	第6図 出土遺物実測図	5

表目次

表-1 出土遺物観測表	7
-------------	---

図版目次

図版 1	上 山頂より家島群島を望む	図版 3	上 B - 1 坪
	中 山頂部調査区全景		中 B - 2 坪
	下 山頂部 No.1 坪		下 B - 3 坪
図版 2	上 山頂部 No.2 坪	図版 4	上 B - 4 坪
	中 山頂部 No.3 坪		中 B - 5 坪
	下 山頂部 No.4 坪		下 C - 1 坪



第1図 周辺遺跡分布地図

- | | |
|---------|------------|
| 1.檀特山遺跡 | 2.大津茂川川床遺跡 |
| 3.川島遺跡 | 4.檀特山古墳群 |
| 5.栗原遺跡 | 6.矢田部遺跡 |
| 7.下太田遺跡 | 8.下太田石棺 |

檀特山遺跡の調査

- 里山林整備事業に伴う埋蔵文化財確認調査 -

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町東南字檀特山麓

2. 調査機関

兵庫県揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課
三村修次・海野浩幸

4. 調査期間

平成 11 年 11 月 26 日～12 月 1 日

5. 調査面積

26 m²

6. 記録作成

土層断面実測図(1/20)、平板測量図(1/100)
遺物実測図(1/1)、国土座標記録(第系)
写真記録(カ-カ-川-川-川 35mm)

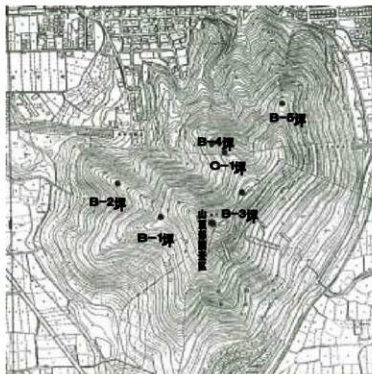


第 2 図 調査位置図(1/25,000 [綱干])

7. 調査に至る経過

檀特山は、太子町の中央南端部で姫路市との境に所在する標高 165m を測る独立丘陵で、『播磨国風土記』枚方里条の「大見山」に比定され、また法隆寺所蔵の『鵜荘絵図』には「行道岡」とあり、山頂に露出する巨岩には多数のくぼみが見られ、それらが応神天皇の沓や杖の跡、あるいは聖徳太子の乗った馬の蹄の跡と言う伝説をもつ。考古学からみると、山頂付近には、弥生時代中期の高地性集落である。檀特山遺跡が、南側尾根上には古墳時代前期の前方後円(方)墳が、南側山麓には古墳時代後期の横穴式石室を主体部にもつ古墳群の所在が知られている。

檀特山遺跡は、昭和 45 年山陽新幹線の送電線鉄塔建設工事に伴い、山頂から北へのびる東西 2 本の尾根で確認調査が実施され、西側に位置する尾根の標高 123m の地点で住居址と考えられる

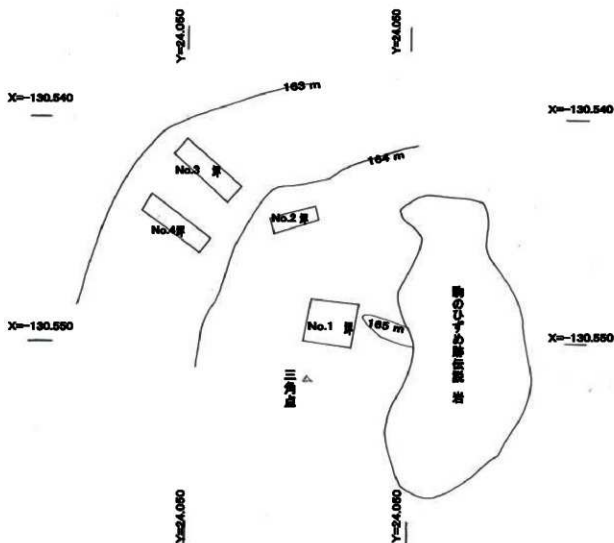


第 3 図 調査区設定図(1/10,000)

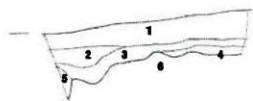
遺構と弥生時代中期の遺物が検出されている。また、山頂南東部付近では有樋式石剣片が採集されている。今回、同山において社団法人兵庫県森と緑の会社による里山林整備事業が行われることになり、山頂部の展望台、野外卓、案内板及び遊歩道ぞいのベンチ(B-1～5)案内板(C-1)等が設置される計 10 個所に坪を設定して確認調査を実施することにした。

8.調査の概要

調査の結果、山頂部西側に設定した No.1 坪(野外卓設置部分)、No.2 坪(案内板設置部分)No.3・4 坪(展望台設置部分)で暗灰褐色の弥生時代遺物包含層を検出したが、その他の坪では表土直下あるいは淡黄褐色・流土下で地山・岩盤となっており、遺物包含層及び遺構は検出されなかった。昭和 45 年の確認調査で住居址状遺構と遺物が検出された送電鉄塔の西約 10m の地点に設定した C-1 坪(案内板設置部分)でも同様な状況で、遺構・遺物は検出されなかった。



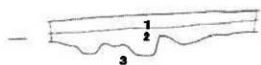
第 4 図 山頂部坪配置図 (S=1/200)



164.80m

- 1.表土
- 2.褐色土・盛土
- 3.黒褐色土・攪拌土(ビニ-ル)
- 4.暗灰褐色土(遺物包含層)
- 5.赤褐色土・地山
- 6.岩盤

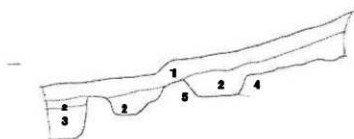
No.1 坪北壁面



164.00m

- 1.表土
- 2.暗灰褐色土(遺物包含層)
- 3.岩盤

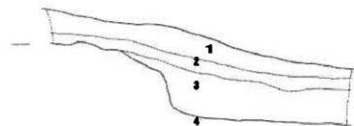
No.2 坪北壁面



163.40m

- 1.表土
- 2.黄褐色・流土
- 3.暗灰褐色土
- 4.赤褐色土・地山
- 5.岩盤

No.3 坪北壁面



163.40m

- 1.表土
- 2.黄褐色・流土
- 3.暗灰褐色土(遺物包含層)
- 4.岩盤

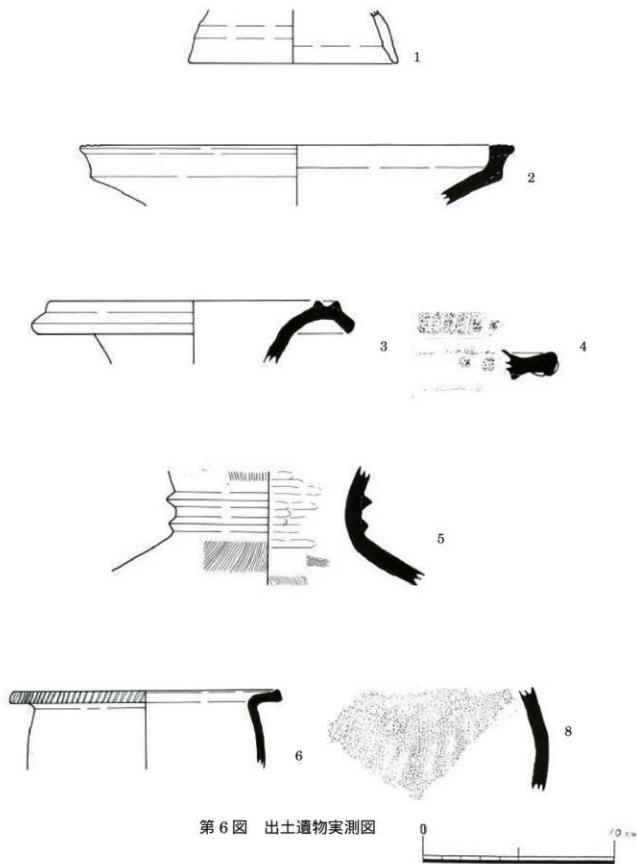
No.4 坪北壁面



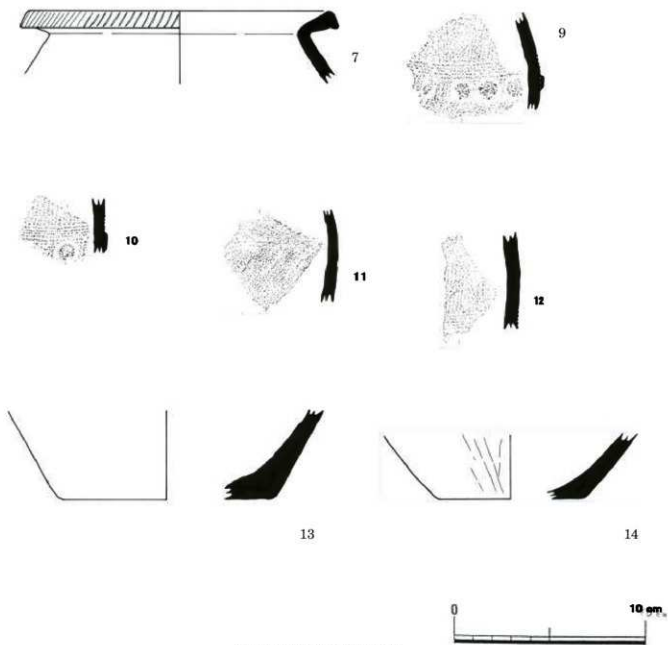
第5図 土層実測図

9. 出土遺物

遺物は、山頂部 No.1~4 坪で確認された遺物包含層からのもので、ほとんどが弥生式土器である。また No.1 坪からは須恵器 杯蓋片 1 点が出土している。



第 6 図 出土遺物実測図



第6図 出土遺物実測図

10.まとめ

今回の調査では、弥生時代中期の遺物包含層を検出するに留まった。構築物の基礎部分という限られた範囲の調査であったが、包含層からは檀特山高地性集落遺跡を考えるうえで貴重な資料を得ることができた。

表 1

出土遺物観察表

溝部出土遺物

No	実測 No	器種	法量 cm	色調	胎土	出土地点	備考
1	9907 1 2	須恵器 杯蓋	口 108	外 灰白 N7 0 内 灰 N4 0	微砂粒含む	山頂 No 2 坪	
2	9907 1 1	弥生 高杯	口 228	外 内 にぶい黄褐 7.5YR5 4	微砂粒含む	山頂 No 2 坪	
3	9907 2 1	弥生 甕	口 152	外 内 にぶい黄橙 10YR7 4	細砂少々と微砂粒含む	山頂 No 2 坪	
4	9907 2 2	弥生 甕	口 140	外 内 にぶい黄橙 10YR7 4	微砂粒含む	山頂 No 2 坪	拓本
5	9907 2 3	弥生 甕	口 159	外 内 浅黄橙 7.5YR8 6	細砂含む	山頂 No 2 坪	拓本
6	9907 2 4	弥生 甕		外 内 にぶい黄橙 10YR7 4	砂粒多く含む	山頂 No 2 坪	拓本
7	9907 2 5	弥生 甕		外 内 にぶい橙 7.5YR7 4	微砂粒含む	山頂 No 2 坪	拓本
8	9907 2 6	弥生		外 橙 7.5YR7 6 内 明黄褐色 10YR6 6	細砂 1.4mmの小石粒含む	山頂 No 2 坪	拓本
9	9907 2 7	弥生		外 橙 7.5YR7 6 内 明黄褐色 10YR6 6	細砂 雲母 石英 1.2mmの小石粒含む	山頂 No 2 坪	拓本
10	9907 2 8	弥生		外 橙 7.5YR6 6 内 黄褐色 10YR5 6	細砂 雲母 石英 含む	山頂 No 2 坪	拓本
11	9907 2 9	弥生		外 橙 7.5YR7 6 内 褐灰 7.5Y 1	細砂含む	山頂 No 2 坪	拓本
12	9907 2 10	弥生		外 橙 7.5YR7 6 内 橙 7.5YR6 6	細砂 雲母 石英 含む	山頂 No 2 坪	拓本
13	9907 2 11	弥生 底部	底 110	外 明黄褐色 10YR7 6 内 橙 7.5YR7 6	細砂 石英 1.4mmの小石粒含む	山頂 No 2 坪	
14	9907 2 12	弥生 底部	底 80	外 橙 5YR6 6 内 明黄褐色 10YR7 6	細砂 石英 1.2mmの小石粒含む	山頂 No 2 坪	

山頂より家島群島
を望む



山頂部調査区全景
(東から)



山頂部 No.1 坪
(南から)



山頂部 No.2 坪
(南東から)



山頂部 No.3 坪
(南西から)



山頂部 No.4 坪
(北東から)



B - 1 坪
(東から)



B - 2 坪
(南から)



B - 3 坪
(南東から)



B - 4 坪
(北から)



B - 5 坪
(西から)



C - 1 坪
(北から)



图版



1



2



4



3



5



6



7



8



9



10



11



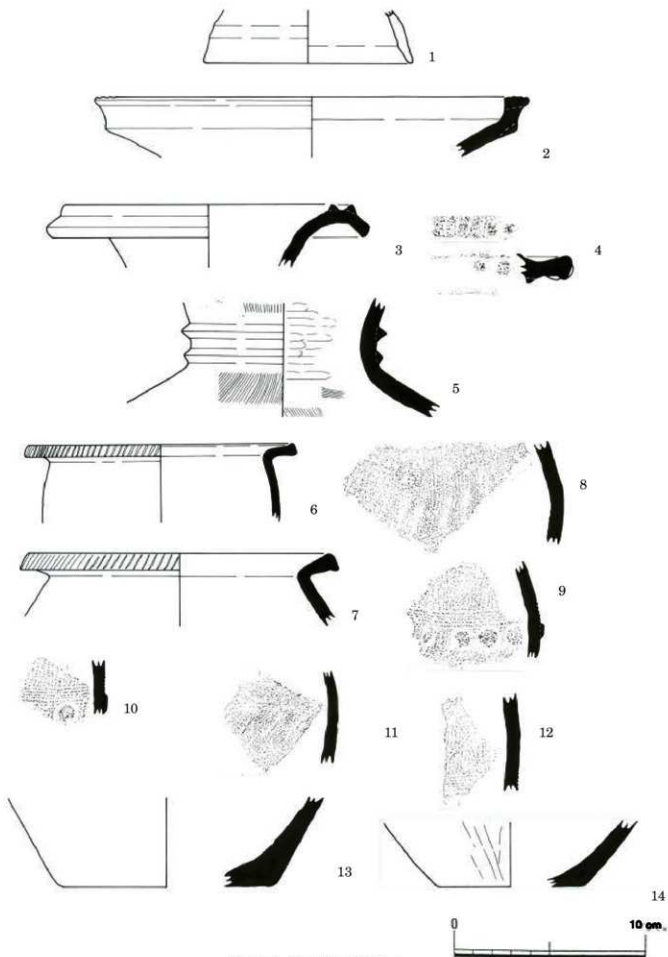
12



13



14



第6図 出土遺物実測図

参考

